いいとこ取りを
産駒につたえる

半血種の名種雄馬

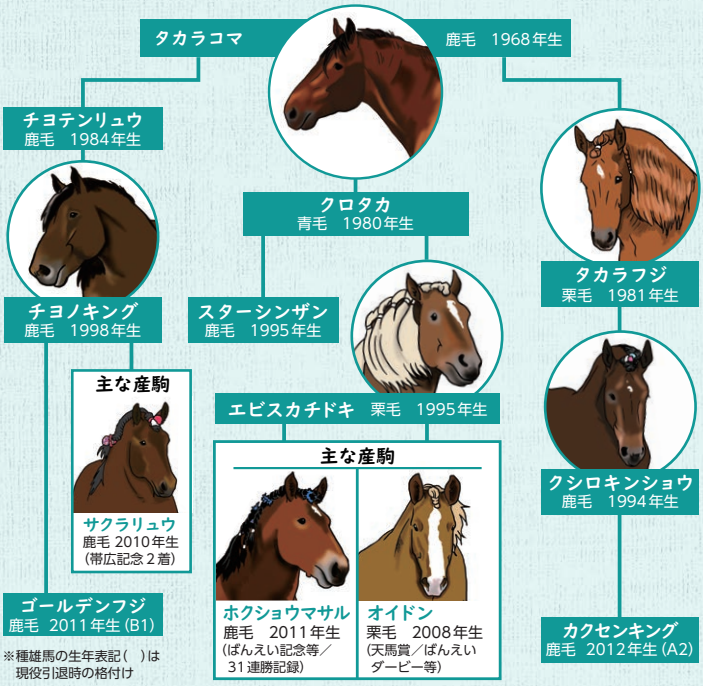
タカラコマ

1968年生　半血種　鹿毛　網走市産
競走成績：93戦31勝 2着17回 3着5回
血統登録馬数：704頭　種雄馬登録数：50頭

ばん馬はかつて競走馬と種雄馬を分けて育成するのが主流でした。しかし、その風潮を変えた先駆者がタカラコマです。

父のケルネヴェーズはブルトン種としては非常に大きな馬で、母の宝はペルシュロン系種雄馬の産駒。父母の良い資質を受け継いだ半血のタカラコマは、雄大な馬格を持ち、競走馬としても種雄馬としても大成しました。供用期間はわずか８年間でしたが、多くの産駒を残しました。産駒の多くは本馬に似て早熟な傾向がありましたが、代表産駒のタカラフジは古馬になってばんえい記念はじめ多くの重賞を勝ち、１億円馬になっています。

今に伝わるタカラコマの血



※種雄馬の生年表記(　)は現役引退時の格付け

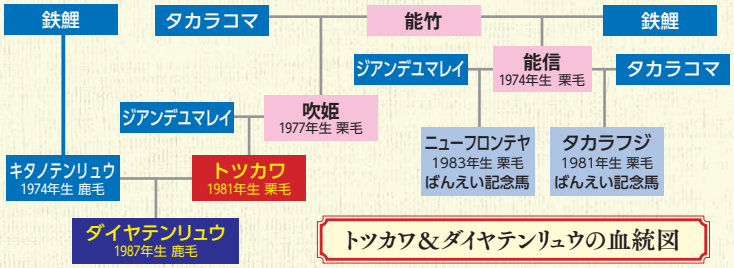
残念ながら直系は先細りの傾向にあります。イレネー記念、ポプラ賞の勝ち馬**クロタカ**から、**エビスカチドキ**～**オイドン**・**ホクショウマサル**につながる系譜が一番発展する可能性があったのですが、悲しいことにオイドンもホクショウマサルも早世して産駒を残せませんでした。直系の父系ではありませんが、クロタカ産駒の**スターシンザン**は母の父として、ネオキングダム（母：汽笛）、クイーンヴォラ＆フォルテシモ姉妹（母：スターシンナ）、アーティウィング（母：亜委）といった活躍馬を送り出しています。

名繁殖牝馬から生まれた名種雄馬

ばんえい競馬では同じ母を持つ兄弟が活躍している事例がたくさんあります。二世ロッシーニで紹介したマツノコトブキも兄ハヤホマレは重賞を12勝した名馬でしたし、ウンカイの妹アンローズは重賞10勝。カネサブラック、カネサテンリュウの兄弟もしかり。なかでも、ダイヤテンリュウの母トツカワは、ばんえい競馬界屈指の名繁殖牝馬でした。

トツカワ自身の競走成績は55戦２勝とふるいませんでしたが、その血統は素晴らしいものでした。父はジアンデユマレイ、母の父はタカラコマ。母系も素晴らしく、おばは２頭のばんえい記念馬の母です。

ダイヤテンリュウは鉄鯉＆タカラコマ＆ジアンデユマレイのコラボレーション！



トツカワ＆ダイヤテンリュウの血統図

そして血統に見合う素晴らしい繁殖成績を上げます。産駒４頭がオープン馬となり、３頭が重賞勝ち。1995年の準重賞レディースカップでは１～３着をトツカワの三姉妹で独占しファンを驚かせました。

トツカワの写真を見ると、毛色や体格などはジアンデユマレイ（ベルジアン種）の影響が強そうです。母の父タカラコマはブルトン種の父とペルシュロン系種雄馬産駒の母から生まれた馬です。トツカワには1/2ベルジアン種、1/4ブルトン種、残り1/4のうち何割かがペルシュロン種という血統構成になっています。このトツカワにキタノテンリュウ（ブルトン種3/4、ペルシュロン種1/4）を交配してダイヤテンリュウは生まれました。ダイヤテンリュウは３品種の混血により日本輓系種が生まれるプロセスを体現しているような種雄馬です。

ちなみに、現在オープンで活躍しているアアモンドグンシンはヨウテイクインの孫にあたります。（母サトミクインはヨウテイクインの産駒です）この一族は今もばんえい競馬界で輝き続けています。

トツカワ 1981年生　半血種　栗毛　豊頃町産

©NAR発行「Furlong」

トツカワの主な産駒

ダイヤテンリュウ 1987　鹿毛
（父キタノテンリュウ）
重賞10勝、年度代表馬、種雄馬

ニセコクイン 1989　栃栗毛
（父ハイスピード）重賞5勝

ヨウテイクイン 1990　鹿毛
（父ハイスピード）重賞10勝

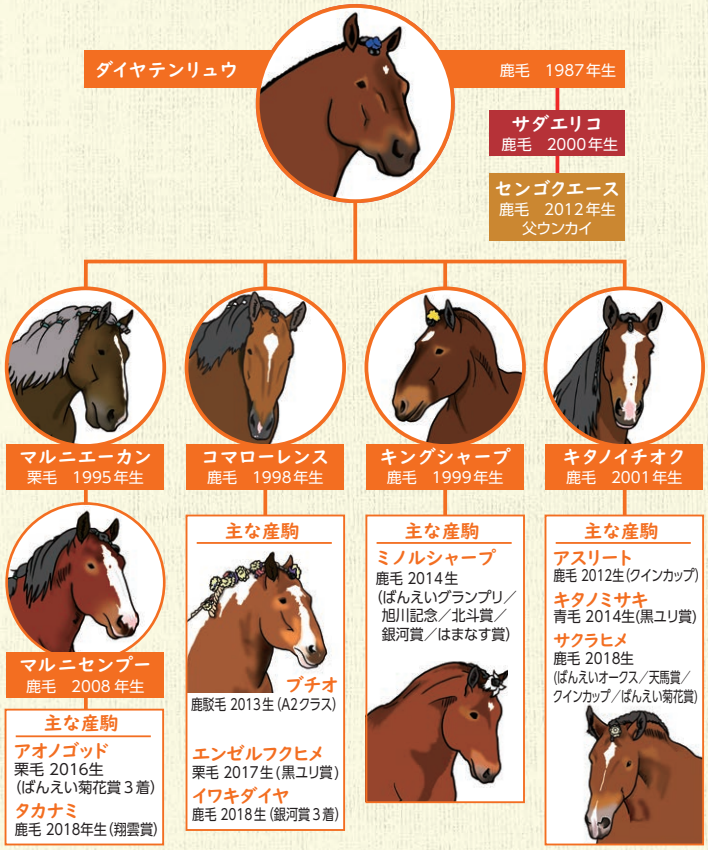
コトブキクイン 1992鹿毛
（父マツノコトブキ）ばんえいオークス2着

ダイヤテンリュウ
1987年生　半血種　鹿毛　ニセコ町産
競走成績：71戦29勝２着11回３着６回
血統登録馬数：557頭　種雄馬登録数：38頭

ダイヤテンリュウは２～５歳まで毎年重賞を勝ち、５歳時の活躍で1992年の年度代表馬に選ばれた名競走馬です。７歳で若くして種雄馬入りしました。

良血で素晴らしい競走成績、世代戦で強かった早熟性。関係者の期待にたがわず、初年度から産駒は活躍し、大差で２歳種雄馬ランキング１位を獲得。その後総合種雄馬ランキングでも６回１位に輝き、2000年代を代表する大種雄馬となりました。

広く発展しているダイヤテンリュウの血脈



多くの現役活躍馬がこの父系の出身です。また、センゴクエースの母で、重賞13勝の女傑サダエリコの父でもあります。